



サインボードも建物も、何かを示唆しているようなトレードマークが特徴的



1階にはオーダー家具のショールーム broadbean (ブロードビーン)

アートな麻布に魅せられて⑭ 日常の中の非日常空間 ～現代アートの発信拠点“complex665”～

昨年10月に開業した複合施設 complex665 (六本木6-5-24)は、グレーと白のシンプルな外観の3階建だ。1階エントランスで目に入るのはモダンな家具のショールーム「broadbean」。上階にはギャラリーが3軒—「小山登美夫ギャラリー」(2F)・「シュウゴアーツ」(2F)・「タカ・イシイギャラリー」(3F)—集まっている。いずれも、世界の名だたるアートフェア(世界中のギャラリーが出演し、作品が販売される美術品の見本市)に数多く出展し、国際的にも高く評価されている現代美術ギャラリーである。



タカ・イシイギャラリー(3F):
登山博文「部屋 | 光」(7/1~29)
展示期間中に撮影
画像提供:タカ・イシイギャラリー

「皆さんに来ていただきたい。六本木は日常生活の中で気軽にアートに触れることのできる街です」と語るのは当施設を開発した森ビル株式会社のタウンマネジメント事業部・渡邊茂一氏。事業テーマの一つとして「文化・芸術」を掲げる同社は、森美術館を擁する文化都市・六本木ヒルズ周辺にギャラリーの誘致も進めてきた。とりわけ「未だ評価の定まっていない現代美術」と「常に進化し続ける六本木の街」に親和性を見出す。

各ギャラリー共、同時代を生きる現代美術作家による新作の展示が中心だ。1か月前後の会期が終わると完全に入れ替わり、やがて別の作家による新しい世界が展開する。

美術館であれば入場料を払って鑑賞するのが普通だが、ギャラリーは入場無料。なぜならここは「商業的ギャラリー(商業的画廊)」だから。作品には基本的に「価格」が付き、「自分のそばに置きたい」と強く思えば購入も可能だ。もちろん、大量生産された工業製品とは異なる一点モノの美術品。決して手頃な価格ではないのだが。

見る側も何かしらの解釈を求められるような感のある現代アートは、「正直わからない、苦手、難解だ」と敬遠する方も少なくないかも知れない。が、もしも興味を持てる

なら、足を運び、見て、感じて、スタッフから話を聞き、やがて理屈抜きで好きと思える作品に出会う。そんな体験を積める場所が身近にある。想像力が刺激され、ひょっとして新しい自分に出会えるかも知れない。ちなみに、展示オープン当日には、会場で美術作家本人に会える可能性が高いということだ。

今後の展示スケジュール

小山登美夫ギャラリー
10/14迄 サイトウマコト「2100」
10/20~21 ギャラリーアーティスト展
<http://tomiokoyamagallery.com>

シュウゴアーツ
10/7迄 イケムラレイコ「あの世のはてに」
10/20~11/18 千葉正也 個展
<http://shugoarts.com>

タカ・イシイギャラリー
10/7迄 野口里佳「海底」
10/20~11/18 榎倉康二 個展
<http://www.takaishiigallery.com/jp/>

取材協力 ● 森ビル株式会社 小山登美夫ギャラリー シュウゴアーツ タカ・イシイギャラリー

シュウゴアーツ(2F):
近藤亜樹「飛べ、こぶた」(7/21~8/26)
展示期間中に撮影



小山登美夫ギャラリー(2F): 桑原正彦「fantasy land」(6/23~7/22) 展示期間中に撮影



(取材/大村公美子、米沢恵美 文/大村公美子)



60年代を象徴する六本木族。徳田さんの生きる力は、この街のエネルギーがよく似合う。ミラー氏との結婚は50歳ちかくも離れた年の差婚。才能が豊かで、お金には縁がない奔放な二人はどこか似ていたという。現在は、六本木のアパートメントで暮らしながら、執筆活動も行っている。

麻布びと

未来へ残したい麻布の声



ホキ徳田さん

芋洗坂に、ホキ徳田さんがいるらしい。世界の文豪ヘンリー・ミラーに愛された8人目の妻で、歌に、踊りに、俳優に、ピアノに、しゃべりに、執筆に、その才能は多岐にわたる。そこで、取材班は向かいました！六本木族が集う夜の街、知る人ぞ知る、あの大人の隠れ家へ。

六本木のピアノ弾き語りプレイヤー

「さあ、どうぞ。中に入って、入って。」という軽やかな声に誘われて、そろり、そろり店の扉を押して中へ入ると、六本木の喧噪が嘘のように、静かで落ち着いたアンティーク調の空間が広がっている。ここが、今回ご登場していただくホキ徳田さんの会員制のピアノ・バー。名前はもちろん、H・ミラーの処女作『Tropic of Cancer』にちなんでいる。取材は、写真撮影からスタートした。

「ピアノ弾いているところ？ いいですよ。コータロー、ちょっと電源、入れてくれる？」

ポロロ〜ン♪と電子ピアノのまるやかな音が室内に響いたかと思うと、「Summertime and the livin' is easy〜♪」と、ハスキーな声で歌い出す。「私は、速弾きが得意なの。」今度は10本の指が、鍵盤の上を縦横無尽に走り回る。すると、カメラマンは右サイドから左サイドから、連続でシャッター音をたてていく。「お、いま指、撮ったね！」しゃべりながら弾きながら、音とリズムは小気味よく、アップ・テンポになっていく。ピアノとカメラのシャッター音。まるで連弾でもしているかのように、シャッター音が絶妙なタイミングで、間を刻む。「あはは、そりゃそうよ。シャッターのリズムに合わせて、弾いたんだから。」すでに大昔のことだというが、徳田さんはかつて石原裕次郎やシャンソン好きの中曽根康弘元首相の伴奏をしたことがある。プロ・アマ問わず、音のピッチやテンポが多少ずれても、口元をみながらさりげなく相手に合わせてしまう。「だから、石井好子さんのTV番組で、中曽根さんがシャンソン歌った時も、わざわざ伴奏に呼ばれたわ。」と、信頼も厚い。



肩書はいらない

ありのままの存在感

スーパー・マルチな社交家

その昔、日本人女性といえば、マダム・バタフライのイメージに重ねられてしまう時代があった。けなげで儂い悲しみのヒロイン、蝶々夫人。しかし、徳田さんは元気で明るい社交家(ソーシャル・バタフライ)だ。芸能界や映画界への進出も、人のすすめや遊びの中から自ずと始まった。

「篠田(正浩 映画監督)さんと麻雀している時、君は何やっている人？へえ、TVや舞台に出ているんだ。映画は？と聞かれて。ないって答えたら、前田(陽一 助監督)さんが温めている作品があるから、明日松竹に行ってみたら？陰の役はもう(香山美子さんに)決まっていて、陽の役を探しているから。そう言われて行ってみたの。そうしたら、すぐに出演が決定して。」

徳田さんは、持ち前の感度とセンスで女優の仕事もとんとん拍子。4本の映画に出た後、何の末練もなく日本を離れ、60年代半ば、ハリウッド・デビュー。そこで世紀の文豪に見初められ、世界の舞台で蝶のごとく羽ばたいた。国内外のShow Bizで、マルチなタレントを発揮する傍ら、別居や離婚も経験した。その後、クラブやカフェビジネスなどにも携わり、活動の拠点を六本木へと戻した。

「きっかけ？さあ、何だったかしら？五木(寛之)さんや阿佐田(哲也)さんたちと飲んでいて、話が面白いから、何か書いてみたら？

書けるよ、って言われたんじゃないかしら。」

徳田さんはペンを持って、無欲恬淡*。ご自身の著書をはじめ、『週刊読売』や『正論』などにも寄稿し、現在は『月刊すばる』にて、コラムを連載中だ。

*あっさりとして欲がなく、モノに執着しないさま。



最愛の母と生きて

「これが、中原淳一がつくった母のウェディング衣装。ハイカラでしょ？」

額に入った1枚の写真。そこには大きなブーケと純白のドレスに身を包み、姉と妹、2人のブライズメイズと並ぶ母・磨智子さんの姿がある。写真の三姉妹は、小学校から東洋英和女学院に通った「那須与一宗隆」の直系子孫にあたる。高等部を卒業した磨智子さんは、昭和初期、カナダの「アルマ・カレッジ」へと単身留学し、家政学と声楽を学んでいる。帰国後、関西学院大学出身の徳田六郎氏と結婚。第一子となるホキ(本名:浩子)さんには、三歳から絶対音感とピアノの英才教育を受けさせた。しかし、疎開先の元八王子子村では6人の子どもを抱え、畑では野菜や小麦を栽培し、200坪の土地では鶏15羽と山羊10匹を飼育して卵を産ませ、山羊のミルクからはチーズまでつくって、家族の栄養管理につとめた。八王子大空襲ですべてを失った焼け野原では、外国人居住区で日本語を教える傍ら、孤児も引き取り、掘立て小屋からホキさんを桜美林高校に通わせた。敗戦国に生きる“Machiko”を思うカナダの母校からは奨学金が与えられ、ホキさんも「アルマ・カレッジ」へと留学。二年後、ピアノ科をトップの成績で終え、卒業演奏会ではオンタリオ州セント・トーマス市から金メダルが授与された。帰国はもう目筋だった。そこへ届いた突然の母の訃報。49歳という若さだった。



若き日の父と母。



母に抱かれて。



家がない焼け跡の庭で。弟や妹たちとハイカラな洋服を着て、これは母の旧友たちがカナダからコンテナで送ってくれた「ララ物資」。前列中央に、里親制度でひきとった男の子と徳田さん。



那須家の三姉妹。80年前とは思えない中原淳一デザインによる洗練されたドレスは、ファア付き。卒業演奏会で授与された金メダルもキラリと光る。

「その悲しみって、しばらくピアノ、やめましたよ。母は明るい人でしたけど、お嬢様でしょ。悲哀というか、相当な苦勞だったと思います。」

芯の強さは母譲りという徳田さん。まるで二人分の人生を歩んできたかのように、豊かな人脈と経験に満ちていた。「若い子たちにはアメリカ大陸横断とか、世界の大きさを肌で感じて、すごい人たちにどんどん会ってほしいよね。」

徳田さんはこれからも、人生で出逢った様々な人たちのことを書き続けていくという。Great Storyteller ホキ徳田さんの更なるご活躍に、ご注目あれ!

本名、徳田浩子(以下、敬称略)。東京・上野桜木町生まれ。6人姉弟の長女。父は、国際連盟の東京支局長、NHKの論説委員などを務め、エスペラント語の普及にも力を尽くした徳田六郎。母は、昭和初期から留学、結婚、田舎での自給生活と子育て、ワーキングマザー、里親、現代の女性にも通じる時代の最先端を走り抜いた。母方の祖父・那須資次は、「弓の名手」那須与一宗隆の直系三十四代目。札幌農学校(現北海道大学)からクラーク博士について渡加。その後、サンフランシスコへ移住。15年後、米車・ビュイック2台を汽船に積んで帰国。上野広小路で高級ハイヤービジネスを営み、東洋英和女学院の理事を務めた。祖母は、「かなめや」という高級洋装店を経営。専属デザイナーの中原淳一とリック人形なども手がけた。父方の祖父・徳田武作は、神戸とサンフランシスコを行き来する高船の船長。明治時代に、『船舶推進器』や『新式機関取扱法』(他)などの著書・訳書出版。

ホームページ: <https://kitakaikisen.jimdo.com/>

(取材/小池澄枝、中嶋恵 文/小池澄枝)



路上駐輪のない 受動喫煙のない ベストタウンへ

世界各地からのさまざまな人でにぎわい、新たなカルチャーを発信する麻布地区。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が近づきつつある今、まちが日々“進化”していることにお気づきだろうか。住む人が、働く人が、訪れる人が、それぞれ、過ごしやすい良いまちにしていく、それを支える「まちのお役立ち」。今回は、駐輪と喫煙対策に、スポットを当ててみた。



六本木駅1a出口目の前の自転車駐輪場。



機械に入庫できるかどうか採寸が行われる。



ワンタッチで入庫。出庫はカードをかざすだけ!!

「魅せる」駐輪場、六本木駅前に誕生。

平成27(2015)年度の第30回港区民世論調査で、自転車・バイクの放置が「区民が不安を感じること」の3位に挙がり、そして「重点的に取り組むべき政策」で「自転車対策」が2位となった。屋外美化と安全への取り組みとして、既に進められてきた指定喫煙場所の設置(みなとタバコルール)に続き、428台収容可能な『六本木駅自転車駐輪場』が設置された(場所ならびに同時に拡大された自転車等の放置禁止区域については7ページ地図を参照)。

設計・運営に携わった方々に話を伺ったところ、まず話題となったのは「魅せる駐輪場」であること! 外観が特徴的な地上17段機械式の立体駐輪場で、入出庫のたびに自転車が瞬間移動している様子がリアルタイムに見えてくる。1台の自転車にかかる処理時間を計ってみたところ、わずか8秒という早業だ。次に話題となったのが「利便性」。定期利用の場合、1か月1800円(学生

は1300円)で、深夜1:30～4:30を除き、年中無休入庫が可能だ(元日は終夜営業の予定)。三河台公園自転車駐輪場の利用者も、手持ちのカードで追加料金なしで利用できる。

利用に際しては、ベテランの運営スタッフがていねいに対応してくれる。日々、「ただいま」「おかえり」「いってらっしゃい」といった言葉が、大都会・六本木で聞こえてきそう。

お問合せ／六本木駅自転車駐輪場

電話／03-3470-4186

●お話を伺った方

株式会社技研製作所東京本社 武内隆政さん
日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社 武居祥弘さん
港区街づくり支援部地域交通課交通対策係 松井良晃さん



喫煙者の“思いやり”は、飲食店にも。

『港区 煙のないレストラン』というオシャレな冊子をご存知だろうか。駅や大学、ホテル、スーパーマーケット、区役所をはじめとして区内270か所で配布しているこの冊子は、みなと保健所健康推進課が編集したものだ。写真や地図も用いて、六本木を含む麻布地区の飲食店が最も多く紹介されているこの冊子。編集した、みなと保健所に話を伺った。

スクは1.3倍とされている。受動喫煙にさらされる子どもはSIDS(乳幼児突然死症候群)の罹患リスクが喫煙しない家庭の子どもの4.7倍で、喘息も発症しやすくなる。受動喫煙による死亡は少なくとも年間15,000人と推計され、これは交通事故による死亡の4倍にのぼる。

(3) 三次喫煙(残留タバコ煙による影響)

服や髪、カーテンや壁に付着したタール等の有害物質が空気に溶け込み吸ってしまうリスク。空気清浄機では、ガス状の有害物質は除去できない。台所の換気扇の下でタバコを吸っていても、いっしょに暮らす子どもからは、親が喫煙しない子どもの3.2倍もの尿中ニコチン代謝物が排出されている。

みなと保健所では、受動喫煙防止の対策として、屋内で禁煙化・分煙化している施設を「みなとタバコ対策優良施設」に認定しており、今回は、そのうちの飲食店についてガイドブック形式に編集し、平成29(2017)年3月に21,000部を発行した。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて外国語版の発行も検討中だとか。

禁煙化・分煙化の程度によって

- ゴールド 敷地内と建物内すべて禁煙
- シルバー 建物内すべて禁煙
- ブロンズ 店舗内すべて禁煙
- ホワイト 完全分煙(独立した喫煙室あり)

に色分けして紹介されており、その色のステッカーが、それぞれの飲食店の入口に掲示されている。



みなとタバコ対策優良施設のステッカー

ところで、タバコによる健康への影響は、おおむね次の3つに分けることができる。

(1) 喫煙者本人への影響

タバコ葉を使うタバコの煙には5300種類の化学物質が含まれ、70種類の発がん性物質が入っている。喫煙は、がんやCOPD(慢性閉塞性肺疾患)、脳卒中などの原因になり、吸わない人に比べて死亡の危険性が1.7倍とされる。妊婦の喫煙は早産、低出生体重・胎児発育遅延にもつながる。

(2) 受動喫煙(まわりの人への影響)

まわりの人は、副流煙と呼出煙(喫煙者が鼻や口から吐き出す煙やタバコ臭い成分)に含まれる、主流煙より数倍の有害物質を吸ってしまい、例えば肺がんのり

最近話題の加熱式タバコや電子タバコは、安全か?

タバコ葉を使っている加熱式タバコは副流煙が出ず「有害物質を90%オフ」と宣伝されている。有害物質が10%は含まれている点に注目しておきたい。タバコ葉を使わず、ニコチンを含まないリキッドを温める電子タバコについても、健康への影響を十分確認できるほどの経過観察が、まだなされていない。つまり、実はこれらは、健康への影響が不明だと言える。

WHO(世界保健機関)は、日本の受動喫煙対策を最低レベルと評価。タバコのパッケージを見ても、健康警告表示が日本はパッケージの下部30%に文字表示のみだが、カナダやオーストラリアはパッケージの大半を喫煙による病状の生々しい画像も添え、タバコの有毒性を視覚的にはっきりと伝えている。タバコによる健康被害を熟知しているみなと保健所では「健康のことを考えると、完全禁煙にすることがのぞましいのですが。」と強く呼びかけていた。

●お話を伺った方

港区みなと保健所健康推進課健康づくり係 鳥居誠之係長、赤間大樹さん、金井真由さん



港区

●参考資料

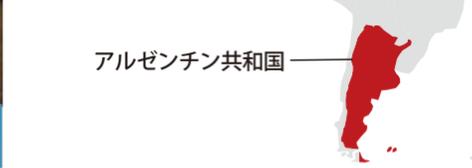
- 『港区煙(たばこ)のないレストラン』港区みなと保健所健康推進課 平成29(2017)年3月発行
- 『第2回たばこ対策関係省庁連絡会議(資料7 喫煙の健康影響について)』厚生労働省作成 平成18(2006)年8月10日
- 『すすめよう禁煙 やめられない喫煙はニコチン依存症』日本医師会 平成20(2008)年5月
- 『みなとタバコ対策(港区受動喫煙防止対策)優良施設ガイドライン(手引き)』港区みなと保健所健康推進課 平成29(2017)年3月第10版発行
- 『平成29年3月1日受動喫煙防止対策強化検討チームワーキンググループ(資料)』厚生労働省作成 平成29(2017)年3月1日
- 『喫煙と健康』国立研究開発法人国立がん研究センター



アラン・ベロー アルゼンチン共和国特命全権大使
Alan Beraud

アルゼンチン共和国
面積:278万平方キロメートル(我が国の約7.5倍)
人口:4341万人(2015年、世銀)
首都:ブエノスアイレス
元首:大統領(マウリシオ・マクリ)(任期4年、1回限りの連続再選可)
議会:二院制(上院72議席(任期6年)、下院257議席(任期4年)).
上院議長は副大統領が兼任)

参考:外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/argentine/data.html>



地図提供:アルゼンチン観光公社(INPROTUR)
http://www.mercosur.jp/01_argentina/

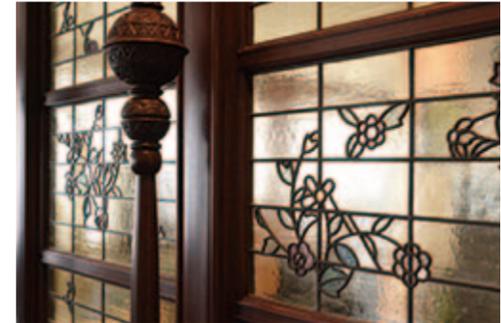
取材協力/アルゼンチン共和国大使館



奥に広い大使館。公邸も兼ねており、1992年に建てられた。



1904年、日露戦争で戦った最新鋭装甲巡洋艦「日進」、「春日」は当時アルゼンチンがイタリアに発注していた戦艦で、日本に譲った歴史がある。両艦は「三笠丸」の隸下に入った。三笠丸は何度も造り直ししながら、横須賀に保管されているが、一部腐材を使って、テーブルが作られ、大使館に大切に保存されている。



現在の元麻布に移転する前は、六本木(現在の六本木ヒルズ)にあった。取り壊す時には、スタンドグラスやマントルピースを保管し、今の大使館でも大切に使われている。



大使館3Fにはパティオがあり、緑が美しい。東京タワー、高層マンションが目に入る。

大使を訪ねて ④1
麻布の"世界"から

ARGENTINA

日本から見て地球の裏側にある国、アルゼンチン。その距離はおおよそ1万8000kmと遙か彼方の遠い国に思えるが、そこには思いも寄らぬ繋がりがあった。2016年4月就任のアラン・ベロー駐日アルゼンチン共和国特命全権大使(以下大使と表記)にお話を伺った。

初めての日本、麻布の印象

大使にとってウルグアイのモンテビデオ、ベネズエラ、ベルギーのブリュッセルの赴任後初めてのアジア圏駐在。来日前、東京といえば大きなビルが立ち並ぶ大都市を想像していたが、麻布に赴任して四季折々の緑が豊かな街であったことに非常に好印象を抱いたとのこと。街がとても清潔で駅や道が整備され、バスや電車が時間通りに来るなど規律正しいが、その中でもお互いを尊重し助け合う文化や、伝統と最新技術が調和しているところがとても良いと感じたという。

大使館は元麻布の麻布氷川神社の目の前にある。大使のお気に入りの場所は有栖川宮記念公園で、週末にテニスやジョギングをしたり、春には大使館スタッフとお花見を楽しんだ。また、六本木ヒルズや国立新美術館に出かけることも。

時には坂を下って麻布十番に食事やアイスクリームを食べに行く。日本食は鰻が一番のお気に入り、寿司、焼鳥などの魚料理がお好きだとか。また、アルゼンチンのアイスはチョコレート味が多いが、日本のアイスは種類が豊富、とにっこり。

南北5000km、様々な自然

アルゼンチンは大陸を南北に広がり、その距離は実に5000kmにも及ぶ。北は亜熱帯性地域で、世界遺産『イグアスの滝』がある。北部には他に、『ウマウワカ渓谷』や7色に彩られた山々、サラレスと呼ばれる塩の山もあり、それは素晴らしい景観。西にはアンデス山脈があり、東は大平原パンパが広がる。南は南極に近く寒冷気候で、世界遺産の青い氷河『ロス・グラシアレス』がある。また、海岸沿いにはペンギンもいる。大使もお子さんが小さい頃に訪れ、「ペンギンと子どもの背丈が同じ位で、一緒に走り回っていたんだよ。」と懐かしそうに話してくれた。

サッカーは人生の一部

アルゼンチンと言えばサッカーという人も多いだろう。大使も「もちろん国民の人気No.1スポーツです。幼稚園や小学校にはどこでもコートとボールがあります。友達に会うとサッカーやフットサルをして、勝った方は飲み物やご飯を奢ってもらえます。」と。サッカーはたとえ他の国にいても時間を共有することができ、アルゼンチ

ン人にとって、人生の一部だという。また、サッカーだけでなくラグビーやテニスも盛んで、先日京都で行われた2019年ラグビーW杯の予選プールの組み分け抽選会にも大使が参加された。

アルゼンチンタンゴ発祥の地

19世紀末に誕生したアルゼンチンタンゴ。アルゼンチンでは日本でタンゴが人気があることも有名だ。私達日本人は、曲名を知らなくても『ラ・クンパルシータ(La cumparsita)』を耳にすれば誰でもタンゴの名曲だと分かる。それだけタンゴが日本で知れ渡っていることは、大使もよくご存知だ。アジア大会は毎年東京で開催され、チケットは完売状態。アルゼンチンでの世界大会優勝ペアは日本でツアーを行う。また、アルゼンチンタンゴを引き立てるバンドネオン(アコーディオンに似た楽器)の演奏手法は伝統として代々受け継がれているが、日本の若い奏者にも人気を博している。



アルゼンチンの食文化

南米のワインは隣国チリが日本では有名だが、アルゼンチンも負けてはいない。ワインの生産量は2015年に世界5位となり、2016年の日本国内での輸入量は7位(※1)となっている。大使のお勧めはサルタ州の果実味が高いトロンテスというブドウ品種で作る白ワインと、メンドサ州の独特の渋みのマルベックという品種で作る赤ワインだ。特にマルベックはフランスを起源とするが、アルゼンチンの寒暖差がある気候にマッチし、生産量は世界一を誇る。大使館でも毎年4月にマルベックワールドデーを開催して紹介している。航空会社のファーストクラスのワインリストで採用されるほど高品質でありながら、麻布・広尾のコンビニやスーパーで手頃な価格で入手できるので、是非お試し頂きたい。

また、アルゼンチンの牛肉の生産量・消費

量はともに世界一で、1人当たりの年間消費量は何と約56kg!日本は約6kgなので、9倍以上の消費量(※2)。牛肉を炭火で焼いたアサードや、牛肉を詰めたパイのエンパナーダが有名だ。そして、アルゼンチンの庶民の味といえばチョリパン。パンにチョリソーを挟み、塩と酢と油とパセリとニンニクを使ったチミチュリと呼ばれるソースで味付けしたホットドッグで、大使は公邸のシェフが作るチョリパンが1番お気に入りだという。

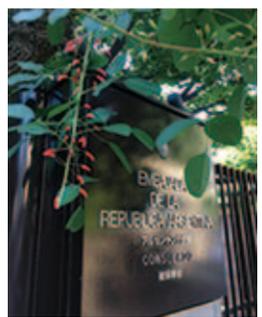
日本との意外な繋がり

2016年は日本からアルゼンチンに初めて移住してから130年。国交樹立前からすでに交流の歴史があり、私達の身近なところでも繋がっている。地下鉄銀座線は、1913年に当時のヨーロッパの最新技術を駆使して造られたブエノスアイレスの地下鉄A線をモデルにした。逆に地下鉄B線では、東京の丸の内線で使われていた赤い車両が今も走っている。また、東京駅近くの丸の内仲通りの石畳には、アルゼンチン南部のパタゴニア産の石が使われており、大使もブエノスアイレスのコリエンテス通りに似た懐かしさを感じるそう。

2018年は両国の国交120周年に当たる。開かれた大使館を目指して今後も麻布の地域と様々な文化交流も検討しているとのこと。来年アルゼンチンの国花であるセイボが咲く頃には、私達もかつて遥か遠かった国をもっともっと身近に感じていられるに違いない。

※1 2016年財務省貿易統計より
※2 独立行政法人 農畜産業振興機構 2013年発表より

アルゼンチンの初夏、11~4月に8~10mの木に赤い可憐な花を咲かせる、アルゼンチンの国花「セイボ(CEIBO)」。元麻布の大使館内でも6月頃、開花する。



アルゼンチンのワインは、日本では7位の輸入量を誇り、年々僅かの伸びをみせている。大使館でも、新銘柄の試飲会など、輸入向上を積極的に取り組んでいる。



アルゼンチンとブラジルにまたがってある「イグアスの滝」は、世界遺産に登録されている。アルゼンチンからの観光名所。長さ約2700mにわたる光景は圧巻!



首都ブエノスアイレスは「南米のパリ」とよばれ、洗練された美しい街並が広がる(ブエン・アイレスはスペイン語で「澄み切った空気」の意味。ブエノスアイレスはその複数形)。アルゼンチン大使館、HPより引用。



2009年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「アルゼンチンタンゴ」。情熱的な踊りは、世界中の人々を魅了する。



平成29(2017)年 六本木交差点と交わる現在の坂上。 写真撮影:おおばまりか

麻布未来写真館

六本木の歴史スクランブル

芋洗坂

「アート」な六本木へとベクトルが移り、賑やかな雰囲気
を覗かせているが、昔の芋洗坂はどんな情景であったの
だろうか？
坂の名前もかなり独特だ。「芋洗い」とはこれ如何に？
沢山の「？」の向こうに何が見えてくるのだろうか？

由来は諸説紛々

坂名は、俗に「芋を洗うよう」と言うが、昔から混雑が絶えない坂だった、という程単純ではなかった。由来は諸説あるのだが、大きく2つをあげてみよう。

大正6(1917)年に出版された『新編江戸志』では、「芋洗坂。日ヶ窪より六本木へ上る坂。坂下稲荷社あり、麻布氷川の持也。毎年秋、近在より芋を馬にてはこび来り、稲荷宮の辺にて日毎に市あり、ゆへに名付けると江戸砂子に見ゆ」という記載があり、坂下の朝日稲荷の前で芋が売られていたためにこの名が付いた、としている。

もうひとつは、古来「芋」と言えば「瘡瘡(痘瘡)」のことも表し、「いもあらい」とは瘡瘡に罹患した際に神仏に祈願し、水で洗うことだったのだ。つまり、「芋洗坂」とは瘡瘡神の傍の坂道であり、寛文年間や寛延年間の地図で坂沿いに見られる法典寺の弁財天が「いもあらい」の祈念が行われ、それが名称の起源である、との解釈もある。

瘡瘡とは？

天然痘ウイルスを病原体とした感染症の一種であり、致死率は平均で20~50%と非常に高い恐るべき病気だった。ちなみに世界で初めて撲滅に成功した感染症なのだ(日本でも昭和30(1955)年に根絶している)。強い感染力を持つため、多くの著名な人物がこの病気に罹っている。

「仙台坂」でおなじみの仙台藩主・伊達政宗はこの病気が原因となり、のちに「独眼竜」の異名で知られる

ことになる。彼は幸運にも生存することができたが、不幸にも命を落とした人物も数多くいるのだ。そんな一人に興味深い名前があった。

蒲生忠郷

陸奥会津藩2代藩主。26歳で瘡瘡に罹り天逝している。幕末に激戦を繰り上げたあの「会津藩」の藩主だ。幕末時の藩主・松平容保とは異なる苗字に「おや？」と思いつつ調べてみると、彼の祖父は先に挙げた「伊達政宗」と深い因縁があった。祖父の名前は蒲生氏郷。織田信長に見込まれ、その娘を娶り、千利休の高弟「利休七哲」の筆頭という、文武両道に秀でた名君だった。それ故に時の権力者・豊臣秀吉の命で、伊達政宗の抑えを託され、徳川家康にらみを利かせる人物として会津に移封となった。会津「若松」の命名も、鶴ヶ城(会津若松城)を築城(改築)したのも彼である。

不幸にして天逝した忠郷に跡継ぎがなかったため、次に会津藩主となったのは加藤嘉明。豊臣秀吉子飼いの「賤ヶ岳七本槍」の一人、武断派として関ヶ原の合戦では東軍主力として活躍した。会津に移封となった時は老齢であったため、わずか4年あまりで死去する。奇しくも茶毘に付された場所は麻布の「善福寺」だった。

閑話休題

話を元に戻そう。昭和38(1963)年から順に芋洗坂の移ろいを並べてみた。「昭和」と「平成」に大きな



昭和38(1963)年 出典:みなと写真散歩



昭和57(1982)年 お店の看板と電線がひしめき合っているようだ。繁華街として脱皮している証でもある。 写真提供:港区立港郷土資料館



平成21(2009)年 昔も今も郵便ポストの位置は変わっていない。電線のない電柱が見られるのは今だけ。近々には抜柱され電線地中化及び道路整備工事も完了する。



平成23(2011)年 電柱と電線がすべて地下に埋められ、歩道も広くなり、街路灯やポロード(車止め)等も新しく整備された。

ギャップを感じるのは私だけだろうか…。約20年毎の写真の並びになるが、「モノクロ」と「カラー」の見た目だけの差ではない。まちづくりの妙ともいえるのかもしれないが、雑然とした文字通り「芋洗い」な雰囲気が年を追うごとにすっきりしている。こうして並べてみて気付く変化に驚いてしまう。

今回は坂名の由来から脱線ばかりしてしまったが、何となく感じるのは「麻布」の地に集まる人の「縁」だった。ここでは詳細に亘る話は憚られるが、麻布には実に不思議な人の歴史が積層されているように思えてならない。芋洗坂に「歴史スクランブル」を垣間見たような気がする。



「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。この事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々を知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。
未来に向けて、残し、伝えていくべき「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当までご連絡ください。
お問合せ 電話:03-5114-8812



夏期勉強会の折り、二の岡神社の森で。
(写真提供/赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)

鳥居坂の東洋英和女学校出身の村岡花子[明治26年(1893)～昭和43年(1968)]と、晩年を麻布材木町の邸で過ごした実業家・広岡浅子[嘉永2年(1849)～大正8年(1919)]。両氏の人生は小説やドラマで多くの人の知るところとなり、小紙でも詳しく紹介してきた。若き日の花子は浅子の薫陶を受け、文学者・翻訳家への道を歩みだす。どのようにして出会い、浅子から何を得たのか。花子の孫である村岡美枝さんの談話をもとにまとめた。

青春時代の花子、晩年の浅子

「赤毛のアン・シリーズ」をはじめ、青少年向けのあまたの外国文学を翻訳した村岡花子。2歳で受洗、明治36年(1903)10歳のときにミッションスクールの東洋英和女学校(以下、東洋英和)に給費生として入学し、20歳で高等科を卒業する。外国人宣教師の厳しくも温かさに満ちた教えのもと、キリスト教の文化や、書籍室のたくさんの本に囲まれた心豊かな生活を送った。途中、歌人・国文学者である佐佐木信綱の門下に入り言葉の感性を磨き、また、学校の先輩で歌人・アイルランド文学翻訳家の片山廣子の影響で近代文学にも目覚め、次第に「自分で何かを書きたい」という思いを深めていく。

その頃の広岡浅子は60代にさしかかっていた。かつては嫁ぎ先の加島屋を発展させ、また日本女子大学の創設に尽力。明治44年(1911)63歳で受洗したのは、日本YWCA(日本基督教女子青年会)の中央委員に就任、各誌に執筆し全国各地をめぐる講演をするなどして布教活動に努めた。最晩年の5年間は、御殿場の二の岡に建てた別荘で夏期勉強会を開催し、後進の女性の育成にも力を入れた。

おとずれた出会い

花子と浅子の最初の接点は、明治26年(1893)に設立された婦人団体「日本基督教婦人矯風会」の活動の中に見出すことができる。矯風会は、アメリカでおもに少年禁酒・禁煙の法制化を目的とした団体の日本支部の組織で、矢島楯子会頭のもとにキリスト教徒の女性たちが集まり、世界平和・純潔教育・酒害防止を目的に掲げた。当時、東洋英和には支部が設置され、花子は奉仕活動として矯風会の大会の記録係や会報誌『婦人新報』の編集に携わった。一方浅子は、同会の趣意に賛同し、大会の基調講演や婦人新報への寄稿などの協力をした。その時点で直接顔を合わせていたかどうかは定かではないが、日本女子大学を卒業した浅子の周辺の女性たち、秘書をつとめていた本木道子、ジャーナリストの小橋三四らによって、花子の存在が浅子に伝わっていたと考えられる。

花子は卒業後、東洋英和の姉妹校である山梨英和女学校に英語教員として赴任する。充実しつつも、心の隅には「もっと文学を極めたい…」そんな燃焼しきれない思いを抱えていた。だが、女性が働くこと自体が稀だった時代、ましてや何の後ろ盾もなく物書きとして独立するなどは考えにくく、実家への仕送りも必要な経済的な事情も山梨にとどまらせていた。まさにそんな時、浅子の二の岡の夏期勉強会に参加しては、と声がかかる。大正5年(1916)と翌年、勉強会への二度の参加が、花子の文学者としての出発点となった。

社会のために尽くす決意

勉強会に集まったのは、これからの時代に活躍してほしいと浅子が願う女性たちで、中にはのちに婦人参政権運動を主導した市川房枝もいた。浅子にしてみれば、苦学しながら高い教養を身につけた花子は、なんとしても応援したい存在だったのだろう。寝食を共にし、哲学や宗教、聖書など幅広い分野について議論があった。内観する時間に重きをおくミッションスクール育ちの花子には、実に刺激に満ちた日々で、自由時間には二の岡神社の森にでかけ討論で熱した頭を鎮めた。大正6年(1917)の折には富士山登山も行ったが、途中で挫折しかけたところ、人の助けを借りようやく頂上にたどり着いた。これからの人生、どんな困難が待ち受けているかわからない。仲間とともに乗り越えていくことの大切さを感じたという。

そしてなによりも、波瀾万丈の人生を生き抜いた浅子の佇まい、その話の一つひとつは、花子の胸に深く響いた。「自分の身につけた学問で、自分ひとりが偉くなるのではなく、日本女性全体の地位をあげることを考えてほしい。小我にこだわらず、もっと大きな世界の中で自分が成すべきことは何か。真我というものをみつけてほしいと思います」(村岡恵理著『アンのゆりかご～村岡花子の生涯』)社会のために尽くすべきという浅子の言葉に、花子はひらめきを得る。後年、その時の心情を自著で表している。「二の岡ですごした二夏は私の後年の生活のある程度決定したともいえる。(中略)私は日本のティーン・エイジャーの読むものについて非常な不満を持っていた。それは若い人たちがわるいのではなく、適当なものがないのだ。(中略)英米の青春読みものの三十年、四十年と年月を経てなおかつ読まれ読まれているものを、たくさんに夏休みのあいだに読めば読むほど、日本の出版界の盲点というべきものを深く感じた。自分はどうかしてこれらの書物を日本の若い人たちに与えたいと、そもそもそういう決心をしたのはあの二の岡の森の中であつた。」(「夏のおもいで」随筆集『曲がり角のその先に』)

その後、大正6年12月初めての著作『爐邊』を日本基督教興文協会(後に教文館)から出版。大正8年(1919)3月には教職を辞して上京し、赤坂新町の矯風会館の2階に住み、日本基督教興文協会に編集者として勤めた。同年、村岡徹三と出会い、結婚。この年の1月には浅子が他界しており、「1月21日、廣岡浅子老婦人告別式―東京神田青年会館にて」の記述を、押し花とともに日記に残している。浅子から受け取ったメッセージは花子の心を支え、文学者としての歩みを大きく進めていく。

(取材 於:東洋英和女学院 本部・大学院棟)

若き日の村岡花子が広岡浅子と結んだ絆 麻布の軌跡



村岡美枝さん
翻訳家。日本女子大学大学院英文学専攻博士課程前期修了。代表的な訳書に『アンの想い出の日々』(新潮文庫)『ヒルダさんと3びきのこざる』(徳間書店)などがある。

花子の孫 村岡美枝さんの思い

15年ほど前、祖母の書斎の整理をしていた時に、メッセージ入りのポートレートを見つけました。署名に「浅子」とある堂々とした年配の女性がどなたなのかわかりませんでしたが、祖母の随筆や日記、手紙の類を読み進めていく中で、浅子氏の素性や人物像、祖母がどのような交流をもったのか明らかになってきました。祖母の若き日の心の葛藤や機微に触れることができ、感無量の思いでした。と同時に、他にも登場する(注:本文中)様々な分野のパイオニアともいえる女性たちの人生についても識ることとなったのです。

現代の私たちが当たり前のように勉強し仕事を選び、家庭をもつこともできるのは、彼女たちが道を切り拓いてくれたからだと実感します。次世代にその価値を伝え、より良き社会への希求をつないでいかなければならないと思います。

私が幼い頃、祖母は仕事に明け暮れていましたが、書斎の扉は開かれたまま、私が近づくと筆を止め様々な物語を話してくれました。心温まる思い出です。

*村岡美枝さんが妹の恵理さん(作家『アンのゆりかご』著者)と主宰していた「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」の蔵書や資料は東洋英和女学院に寄贈され、現在は、本部・大学院棟の1階ロビー「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」(http://www.toyoeiwa.ac.jp/muraokahanako_bunko/)で見ることができます。

●広岡浅子からのポートレート



浅子が花子に贈ったポートレート。「愛する安中花子(花子の旧姓)嬢によりて贈る友折袴 相思ふ清き心をとことばにかみにいのりて深さくらべん浅子」(お互いのことを思い合うのは永遠であると神に祈って、その深さを比べてみましょう。)浅子の温かい心が伝わってくる。(資料提供/赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)

●広岡浅子を囲んで



夏期勉強会での貴重な一葉。(写真提供/赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)

(取材/田中亜紀、おおはまりか 文/田中亜紀)

●取材協力
東洋英和女学院
●主な参考文献
村岡恵理 著『アンのゆりかご～村岡花子の生涯』新潮文庫
村岡花子 著 村岡花子エッセイ集『曲がり角のその先に』河出書房新書

●花子と浅子に関するザ・AZABUバックナンバー
No.30、31「麻布の軌跡」『赤毛のアン』の翻訳者、村岡花子が暮らした麻布鳥居坂 前編・後編
No.35「麻布の軌跡」広岡家の麻布材木町の家
No.37「麻布の軌跡」広岡浅子とヴォーリス・満喜子の絆
No.39「みんなの社会科見学」東洋英和女学院史料室の展示コーナーへ行ってみませんか!
○こちらからご覧になれます <http://www.city.minato.tokyo.jp/azabu/index.html>

消防団の取組

麻布の火消したち—もしかして、あなたのお隣さんも、消防団員？—



麻布消防団は、麻布・六本木地域に在住・在勤する方々が麻布消防署と技術協力しながら、地域住民の防災行動力を高めるために、出火防止・初期消火・避難訓練・応急救護訓練などを通じて防火防災思想の普及に努めています。

平成29(2017)年6月18日、第65回港区消防団ポンプ操法大会が港区立芝公園で行われました。日頃の活動で培ったチームワークを発揮し、浅見分団長を中心に活動する麻布消防団第4分団岩崎隊が、港区内で19ある消防団分団のなかで準優勝という、輝かしい成績を収めました。

(取材・文/加生武秀)

●麻布消防団では、18歳以上の新入団員を募集しています！

入団希望・お問合せ/麻布消防署防災安全係 電話/03-3470-0119

http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-azabu/syouboudann.html



麻布地区地域サロン事業

“ちょこっと立ち寄りカフェ”に来てみませんか

地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。毎月、いきいきプラザ4館で開催していますので、まずはお近くの会場に立ち寄りませんか。

会場及び内容(予定) 毎回イベント、講座、ゲームなどを行っています。

Table with 2 columns: 飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11 and 西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3. Lists dates and activities like 'Natsu no Meshi' and 'Handmade Goods'.

時間 毎回 午後1時30分から午後3時30分まで 対象 どなたでも
参加費 100円(茶菓子代含む) 申込み 不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ/麻布地区総合支所区民課保健福祉係 電話/03-5114-8822

どんぐりカレンダーを作ってみよう！
～みんなでエコっとプロジェクト 参加者募集～

“環境やエコ”をテーマに「見る」「知る」「体験する」機会を提供し、地域の子どもたちが自然や生きものを大切にすることを育む取組として、「みんなでエコっとプロジェクト」を実施しています。今回は、有栖川宮記念公園内を探検しながら見つけた木の实などを使ってカレンダー作りをします。



どんぐりカレンダー作りの様子

日時 平成29年11月19日(日)午前10時から午前11時30分まで
会場 港区立有栖川宮記念公園他
定員 区内在住の親子15組(応募多数の場合は抽選)
参加費 無料
申込期間 平成29年10月11日(水)から平成29年11月8日(水)まで
申込方法 住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、郵送、ファックスまたは持参のいずれかで、下記申込先にお申込みください。

お問合せ・申込先/〒106-8515 東京都港区六本木五丁目16番45号
港区麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当
電話/03-5114-8815 FAX/03-3583-3782

港区基本計画・麻布地区版計画書(平成27年度～平成32年度)の見直しについて

麻布地区総合支所では、「港区基本計画・麻布地区版計画書(平成27年度～平成32年度)」の後期3年について見直しを行っています。見直しにあたっては、区民参画組織「麻布を語る会 麻布地区政策分科会」からの提言内容を踏まえ、反映に努めています。

今後、素案を策定した段階で、広報みなとや港区ホームページで意見を募集するとともに、区民の皆さん向けに説明会を開催します。日程の詳細は、「広報みなと11月11日号」でお知らせします。

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話/03-5114-8812

六本木駅周辺の自転車等の放置禁止区域を拡大しました

平成29年8月1日から、六本木駅周辺の自転車等の放置禁止区域を拡大しました。放置禁止区域内に放置されている自転車は「港区自転車等の放置防止及び自転車等駐車場の整備に関する条例」に基づき、即日撤去の対象となりますので、ご注意ください。

自転車は、手軽で安全な乗り物ですが、歩道に放置されていると歩行者の安全な通行の障害となり、怪我や事故に繋がる危険性があります。また、災害時には避難・救助活動の妨げにもなります。

区は、六本木駅周辺の放置自転車を無くし、安全で快適な歩行環境を目指しています。皆さんのご理解、ご協力をお願いいたします。



お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当
電話/03-5114-8815

港区・東洋英和女学院連携事業

各国の文化と最新お国事情に触れよう！
～大使館交流イベント参加者募集～

東洋英和女学院と区が連携し、同大学生涯学習センター開設20周年記念事業として、地域の方々が各国大使館と相互交流できるイベントを開催します。異文化を知り、異国の食にも触れられる貴重な機会です。ぜひご参加をお待ちしています。

Table with 4 columns: 日 程, 大使館, 開催日, 申込期間. Lists events for the US and Thai embassies.

*詳細は別途、東洋英和女学院大学生涯学習センター HPをご参照ください。

会場 東洋英和女学院大学大学院棟 201教室(港区六本木5-14-40)
時間 共に午後6時から講演、午後7時から午後8時30分(予定)までレセプション
定員 各回先着30名 参加費 無料
申込方法 住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、往復ハガキ、ファックス、メールのいずれかの方法で、下記にお申込みください。
申込先 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32
東洋英和女学院大学 生涯学習センター
電話/045-922-9707 FAX/045-922-9701
E-mail /shougaictr@toyoeiwa.ac.jp

オレオレ詐欺・還付金詐欺被害に要注意！

不審な電話がかかってきたら、絶対に個人情報を教えず、本物の家族に連絡し、警察に相談してください。また、警告音声が出る迷惑電話防止機能付電話機の設置をお勧めします。

お問合せ/麻布警察署防犯係 電話/03-3479-0110 (内線2162)

港区麻布地区総合支所だより



平成29年度港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します ～自助・共助意識を高めましょう～

日時 **平成29年10月22日(日)**
午前9時30分～12時

※選挙等の都合により、日程及び内容が変更になる場合があります。

※天候により体育館のみで実施になる場合があります。
当日は「みなとコール03-5472-3710」にお問い合わせください。

場所 港区立六本木中学校校庭及び体育館
(六本木6-8-16)



同時開催!

遊ばなくなったおもちゃを持ってこよう!



「防災訓練」とおもちゃの交換会「かえっこバザール」を組み合わせた楽しみながら防災の知恵や技が学べる新しい形の防災訓練です。
<http://kaeru-caravan.jp/>

会場案内図



※当日の訓練内容及び会場レイアウトは変更になる場合があります。
※カエルマークが付いているプログラムに参加すると、おもちゃの交換に使うカエルポイントがもらえます。
※A～Dグループの訓練を1つずつ参加した方には、記念品がございます。(数には限りがあります)

体育館コーナー案内図(Dグループ)



参加無料

どなたでも自由に参加できます。当日直接会場へお越しください。

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話/03-5114-8802

タイムテーブル

- 9:30 開会式
かえっこバザール (おもちゃの交換会)
- 9:50 防災体験プログラム
- 12:00 かえっこオークション
※おもちゃがなくなり次第、終了します。

英語通訳ツアー

港区総合防災訓練(麻布会場)では外国人参加者を募集しています。英語通訳者と会場を回り、訓練を体験するツアーなのでお気軽にご参加下さい!



時間 午前10時から12時まで
参加費 無料(事前申込必要)

- 申込期間 平成29年10月20日(金)まで
- 申込方法 (1)氏名(2)住所(3)電話番号(4)日本語対応の可否を電話でお申込み下さい。
- 申込先 電話/みなとコール 03-5472-3710
*日本語または英語
*受付時間は午前9時から午後5時まで

「ルール違反ゼロの六本木へ」 合い言葉はZERO ROPPONGI～六本木安全安心憲章～

ルールがあるから自由がある。たくさんの人と文化が集う六本木で、すべての人が自由に、楽しく過ごせるように。



ルール違反ゼロの六本木へ。 合い言葉は、ZERO ROPPONGI
Toward a Roppongi with ZERO violations. Our slogan is ZERO ROPPONGI!

「清掃・啓発活動」と「客引き防止パトロール」を主なテーマとして、毎月、町会・自治会、商店会、事業者、関係行政機関の皆さんとキャンペーン活動を行っています。
活動に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話/03-5114-8802

区では、憲章を周知する一環として、港区「六本木安全安心憲章」推奨事業所等認証制度を実施し、憲章の趣旨に賛同する事業所等を随時募集しています。

また、賛同事業所等の中で、より積極的に地域活動を行う事業所等を推奨事業所等として認証しています。

- 対象 六本木地区(六本木3～7丁目、赤坂9丁目7番)に主として立地または活動する事業所等
- 申し込み 直接または郵送で、賛同書に必要事項を明記の上、麻布地区総合支所協働推進課へ。
※「賛同事業所等」として、名称を港区ホームページや本紙に掲載します。

「六本木安全安心憲章」については、こちらから港区ホームページ <http://www.city.minato.tokyo.jp/>

六本木安全安心憲章 検索



ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いざいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Chief 田中亜紀
- Sub Chief 高柳由紀子
- Staff 石川味季、出石供子、大澤佳枝、おおばまりか、大村公美子、加生武秀、加生美佐保、小池澄枝、田中康寛
- 中嶋 恵、畑中みな子、堀内明子、森 明、山下良蔵、米沢恵美、渡邊香奈、渡辺久剛

編集後記

新しい現代アートギャラリー、魅せる駐輪場、サッカーとタンゴの熱い国アルゼンチン大使館、いつも賑やかな芋洗坂で、昼は炎天下の屋外取材、日が暮れると会員制のピアノ・バーでのナイトタイム取材、花子と浅子シリーズの集大成「麻布の軌跡」、……どの記事も編集委員と行政との「協働」作業のためものです。
読者の皆様へ、2017年秋に「ザ・AZABU」第41号を充分にお楽しみいただけることを願っております。(おおば)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752
Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp

※第40号「大使を訪ねて」のルーマニアの面積「約23.8平方km」は正しくは「約23.8万平方km」でした。お詫びして訂正します。